



新宿山吹だよりは、保護者の皆さんにも読んでもらって下さい。

「東京オリンピック・パラリンピックへの思い その2」

校長 永浜 裕之

東京オリンピック・パラリンピック（以下、東京オリンピック）が開会します。

思い起こせば、8年前の2013年9月7日。アルゼンチンのブエノスアイレスで開かれたI O C総会で、トルコのイスタンブール、スペインのマドリード、そして、東京の3都市がプレゼンテーションを行い、1回目の投票でイスタンブールとマドリードが同数で並び、再投票でマドリードが落選しました。東京とイスタンブールによる決選投票の結果、東京が過半数を超える票を集めて開催都市に選ばれました。

東京は、財政基盤が安定し、世界で最も安全な都市であることをアピールし、最終プレゼンテーションでは、懸念が広がっていた福島第一原子力発電所の汚染水の問題について安倍総理が、「影響は、福島第一原発の港湾内の0.3平方キロメートル範囲内の中で、完全にブロックされている」と説明し、対策について責任を持つと表明しました。

開催都市に指名され、日本中が熱狂に包まれた時と比較すると、開会直前の今でさえ、「何故、コロナ禍の時に東京オリンピックを開催しなければいけないのか？」という声が報道され、本来、感動や歓喜にあふれるオリンピックの捉え方の変容に、戸惑いを感じる人も多いことでしょう。とはいえ、見方を変えれば、コロナ禍の中でオリンピック開催の意義等が問われたことは、よい機会となったと考えることもできます。

オリンピックの延期が決まった昨年、I O Cの会議を中継で見ながら私は、「**延期という決断は、日本だから託そう、日本ならば大丈夫だ**」と各委員が考えていると感じました。日本への信頼に嬉しさを感じると同時に、「**日本だから託すのだという重み**」も感じました。私は、中止という決断をしたなら、今後の日本の在り方や、世界からの日本への信頼が大きく変わってしまうと考えていました。**オリンピック開催は世界との約束です。指名を受けた以上、日本に託されたことを貫き通すことは、とても大切なことだと考えます。また、コロナ禍という世界規模の難題にぶつかっているとき、解決に挑み、確実に前に進もうという姿勢は、私たちがこれからどのように生きていくのかという、その姿勢にもつながることだと考えます。**

スポーツは不要不急だという批判もあります。

私は、「スポーツが持つ力には計り知れないものがある。」と考えます。

「為せば成る」という言葉がありますが、私は、「どんなに頑張っても、どんなに努力しても、報われるとは限らない」と考えます。努力が報われないとき、これまでの経験から自分を納得させ、次に向かって歩みを進められるかが大切です。

スポーツには、挫折を乗り越える場面が多くあります。スポーツはとてもシビアで、どんなに努力しても勝てるとは限らないし、金メダルがとりたくても、入賞したくても、メダルの数は決まっています。勝敗に至る過程が、人生のドラマのように分かりやすいという側面もあります。スポーツを通じたつらい経験や、苦しい練習に耐え、何かをつかもうとする努力は、大きな苦難に遭遇したとき、苦難を乗り越える力になる可能性があります。

私たちは、オリンピックを特別なものと感じています。

たとえば、古代ギリシャのオリンピックでは、開催期間中は、すべての戦争が休戦となりました。東京オリンピックも、第74回国連総会で、いわゆる「オリンピック休戦決議」が、186か国の全会一致で採択されました。東京オリンピック期間中、全ての国連加盟国の間の休戦が決議されています。

東京オリンピックを見た人が、アスリートの活躍から勇気もらい、「生きていることは素晴らしいこと」と気付くとともに、「何か自分にできることがあるのでは？」といった思いを持ってくれる大会になれば良いと考えます。

(令和3年度 通信制・定時制7月終業集会校長あいさつ抜粋)

驚きの古代五輪

優勝者へは、**オリーブの冠**のみ

古代オリンピック（オリュンピア競技会）の優勝者は、聖域に生えるオリーブの枝で作った冠を賞品として与えられました。ギリシャ的理想として名誉と卓越性を重んじた結果、シンプルにオリーブの冠のみを与えるとしたと考えられています。

しかし、ホメロスの「イリアス」に記されているように、選手が町に戻ると、莫大な金銭や税制の優遇、役職の提供があったそうです。

アスリートの語源であるギリシャ語のアトレテスは、「アトロン(賞品)を競う者」という意味からも、その辺の事情が伺えます。

過酷な、観戦

紀元前4世紀後半までは、一部関係者の宿泊施設しかなく、観客の多くは、川沿いのテントや掘っ立て小屋に宿泊していました。夏の暑さで衛生環境は悪く、清潔な水の確保も難しく、ハエの大発生や、死者も出るなど、庶民の観戦は大変だったようです。

競技場の収容人数は推定40,000人以上とされていますが、ギリシャ周辺からも観客が集まり、大変な人出だったようです。

ルール無用の格闘競技

格闘競技「パンクラティオン」は、かみつきと目つぶしのみ禁止され、どちらかが人差し指を挙げて降伏するまで競技は続きます。2度優勝したアラキオンという選手は、3度目の大会の決勝で相手のノド攻めで窒息死しますが、絶命直前の反撃で相手が人差し指を挙げていたため、死者であるアラキオンにオリーブの冠が与えられました。

クライマックスは、**100頭の牛をゼウスへ捧げる儀式**

古代オリンピックのクライマックスは、100頭の牛をゼウスに捧げる「ヘカトンバー」の儀式です。神には骨を焼いた煙と匂いを捧げ、当時、高価だった牛肉は観客に振る舞われたといわれています。

初期は1日で行われたオリンピックも5日間開催され、競技の合間には宗教的儀礼が行われました。会場周辺では、弁論家や詩人のコンテスト、画家が絵を売るなど、商売も行われていたようです。

選手は**全裸で出場**

古代オリンピックに出場する選手は、全裸で参加していました。その理由は、肉体美の誇示、呪術的な意味、不正行為の防止など、諸説あります。

様々な文献を読むと、ギリシャ人は全裸で競うことを誇りに感じていたようです。

ちなみに、「裸の」を意味するギリシャ語のギュムノスが、ギュムナシオン（体育練習場）に派生し、現代語の「ジム」や「ジムナクティクス（体育）」という言葉が生まれました。

暴君ネロ

ローマ帝国による併合後も、オリュンピア競技会は継続され、紀元67年の第211大会では、ローマ帝国第5代皇帝ネロ自身が、戦車競走に出場します。ネロは途中で棄権しますが、権力を用いて自らに勝者のオリーブの冠を与え、さらにローマへ凱旋行進も行いました。また、勝手に「詩の朗読を伴う音楽競技」を開催し、こちらも自らを優勝者としました。

その後、度重なる悪性と悪事で失脚し、大会翌年の紀元68年に亡くなっています。

宮城徳也（早稲田大学）
「ギリシャ・ローマ文学必携」参照

定時制課程 学校行事予定

7月20日（火）全校集会（Teams）
21日（水）夏季休業（始）、オリンピック競技開始
22日（木）海の日
23日（金）東京オリンピック開会式
8月8日（日）東京オリンピック閉会式
24日（火）2学期転学・編入学願書受付（9-15）
東京パラリンピック開会式
25日（水）2学期転学・編入学願書受付（9-12）
26日（木）2学期転学・編入学選考（午前登校禁止）
28日（土）学校見学会
31日（火）通信制入試（登校禁止）、夏季休業（終）
9月1日（水）転編入入学式（13:30～）、
授業開始、避難訓練
5日（日）東京パラリンピック閉会式

通信制課程 学校行事予定

7月17日（土）スクーリング
18日（日）スクーリング
21日（水）夏季休業（始）、オリンピック競技開始
22日（木）海の日
23日（金）東京オリンピック開会式
8月8日（日）東京オリンピック閉会式
24日（火）東京パラリンピック開会式
27日（金）2学期転学・編入学願書受付（9-15）
30日（月）2学期転学・編入学願書受付（9-12）
31日（火）2学期転学・編入学選考（登校禁止）
9月1日（水）転編入入学式（13:30～）
4日（土）スクーリング1-12
5日（日）東京パラリンピック閉会式
11日（土）前期試験①
18日（土）前期試験②